

皆さまこんにちは。日本共産党のやどめ和子です。東区でこの度初当選し、はじめての登壇となります。よろしくお願いいたします。

選挙戦では沢山の訴えをしてきましたが、一般質問の短い限られた時間の中で、何を取り上げるかは本当に悩みました。私自身の子どもが食物アレルギーを持っていたことをきっかけに、食へ関心を持ち、食べ物が私たちの命と健康の根幹にあるということ、子育てを通して改めて認識しました。

心身ともに成長していく時期の子どもにとって、毎日食べる給食は大変重要なものです。また、その食を支える生産者さんを、消費者である私たちが大切にしていかなければいけないと考えています。

では通告に従い、学校給食のテーマで質問に入らせていただきます。

## 1 学校給食について

### (1) 学校給食と農業振興

学校給食の充実は、岡山市が全国でも先駆けて力を入れてきた分野でもあり、直営自校調理の多さや、各学校への栄養士の配置、独自献立など、全国的にみても胸を張れるものでした。以前住んでいた東大阪では、中学校はお弁当持参でした。自校調理があたり前で育った岡山育ちの私には衝撃でした。

しかし、岡山でも徐々に民間委託率が増え、給食を任されていた正規の学校栄養職員さんは減り、独自献立も少なくなり、地元の農家さんや、商店との関係も、結果的に減ってしまいました。

来年度から公会計がはじまります。教職員の負担軽減は大変うれしいことです。その一方で、様々な課題も感じています。

これまで学校と直接取引をしていた業者も、今後は岡山市学校給食会を通すやり方に統一する方針を出しました。過去の議会でも、それによって今まで取引ができていたところが、今後も引き続き出来るよう求めている、当局からも、特別な登録制度を設けていくという答弁がありました。

そして実際に、今回の制度変更に伴って、新たに『地域小規模認定事業者』と『食育推進協力者』という枠を岡山市給食会が設けました。

『地域小規模認定業者』は、発注された全ての青果物を供給可能なことと、納入先は、原則事業者の拠点のある中学校区にエリアを限定されます。例えば、1つの学校やセンターで、キャベツ、玉ネギ、にんじん、じゃがいも、小松菜が必要だとしたら、そのすべてを必要な数揃えて納入出来る事業者が対象となります。

これまで、地域の農家さんのお野菜をまとめて納入していたところも、全て揃えることが出来なければ参入できなくなり、学区をしばられることで取引先が限られます。

【食育推進協力者】は、中学校区内で採れる地元食材を時期限定的に「生きた教材」として、食に関する指導の全体計画に入れる場合に供給可能。というこれもまた、原則中学校区に限られ、学校教育の中で位置づけたもの。という単発的な制限もあり、例えば岡山市のじゃがいも農家さんが育てたものを、この時期はうちの学校では継続的に使う。ということはやりにくくなります。

今年度から給食の公会計を実施している東京の港区に聞いてみたところ、納入事業者の登録制度が同じように導入されていますが、「学校から発注された全て」や、「中学校区内に限定」といった条件はなく、これまで取引をしていた事業者が、引き続き同じように学校と取引ができる状態にしています。変わったことは、学校が業者に支払うお金が、保護者からの集金ではなく、行政からの食材費予算で支払うようになったということだけです。

令和元年7月に文科省が「学校給食費徴収・管理に関するガイドライン」というものも出していて、ここでは、日持ちする調味料や加工食材等は、全学校・給食センター分をまとめて単価契約で調達することで、調達コストを引き下げることができると考えられます。一方で、公会計化するからと言って、献立作成や食材調達を全て一本化する必要はありません。と書かれています。

質問ア これまで学校が独自に取引をしていた事業者が、すでに25社地域小規模認定者に登録をしたと聞いています。この度登録はせず、学校給食との取引を辞退した、又はする予定の事業者は個人も含め何件ありますか。

質問イ 岡山市は、公会計で給食費を一括管理することは、食材調達を一本化することを条件と考えているのですか。

質問ウ 岡山市内や県産の農産物や加工品を学校給食で活用しやすくするためにも、「発注されたもの全て」や「原則中学校区」といった枠はなくしませんか。

これまで地域の子ども達のためにと、減農薬で美味しい野菜を頑張って提供してくれていた農家さんが、学校給食から離れていってしまうことが大変残念です。

また、学校給食の役割は、子ども達への食育の役割、健康作りの役割と同時に、地域の中小農家さんを支える役目もあるのではないかと考えます。

そこで産業政策担当局長にお尋ねします。

質問エ 毎日5万7000食の学校給食が地元農家を支える1つになります。学校給食が岡山市の農業振興に与える影響をどのように考えますか。

質問オ 岡山県の地産地消推進方針の中には、学校給食への地域食材の利用推進が位置づけられています。岡山市でも、学校給食と地産地消の連携を計画に位置付け、農業振興に役立てていきませんか。

## (2)オーガニック給食への進行状況と課題

令和3年2月議会で、「より安全な学校給食実現に関する陳情」が全会一致で採択されています。しかし、その後の進捗状況について進展が見えません。岡山市の学校給食が出すパンや麺には80%アメリカ・カナダの小麦が使われていて、残留農薬の危険性が分かっている今でも、子ども達は毎週食べています。

体重比が大人よりも小さい子どもにとって、農薬の影響はより大きくなります。小麦だけに限らず、農薬や化学肥料を使わない給食は、子ども達の心身の発達にとって非常に大切です。

また、遺伝子組み換えの農産物を使った加工食品も多く出回るようになった現在、学校給食の現場でどのように対応しているのかも気になります。

質問ア 岡山市は、段階的に地産のオーガニック給食を進めていこう、という意思はありますか。具体的に進んだことがあれば教えてください。

質問イ 現在、主食の原材料は岡山県の給食会から購入しているようですが、岡山市独自でパンや麺の小麦は県内産、せめて国産に切り替えていくことはできませんか。

質問ウ 農家さんが安定して量産していくには、採算の合う安定した価格で買い取ってくれる消費者が必要です。岡山市の有機農産物を積極的に学校給食で買い取る意思を明らかにして、有機農家の事業拡大や、就農を後押ししませんか。

質問エ 遺伝子組み換えの農産物や加工食品が、学校給食に使用されないために設けている規定はありますか。